

めざす児童生徒像

よく考え工夫する子（思索）【主体的に学ぶ力 学びを生かす力 表現する力】
たくましい心と体の子（剛健）【挑戦する意欲 最後までやり抜く力 健康を管理する力】
思いやりの心で協力し合う子（誠実）【対話する力 協働する力 自他の良さを認める力】

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

| | 目標 | 項目 | 目標指標 | 評価達成度アンケート内容・調査項目 | | 数値・アンケート結果（％） | | | ※差 | 達成状況の分析 | 改善策 | |
|-------------------|---------------|----------|------------------|-------------------|--|---------------|-------|-------|---------|---|---|--|
| | | | | | | 教員 | 児童生徒 | 保護者 | | | | |
| （学校で設定） 学校重点項目 | 組織的な学校運営 | 木場の校風づくり | 各項目90％以上の達成率にする。 | ① | 児童は自分を高めようと意欲を持って粘り強く努力している。 | 100.0% | 94.8% | 60.3% | 39.7% | ①②とも児童及び職員との差はそれほどないが、保護者との差は大きくみられる。特に、①の差は大きく、学校の児童の姿と家庭での姿の違いの表れとみられる。 | 懇談や通信などで家庭との連携を密にし、学校の児童の姿を共有したり、家庭学習・生活チェック・家族読書などの家庭との連携による取り組みで児童の高まろうとする姿が家庭でも現れるように指導する。 | |
| | | | | ② | 児童は周囲に対して、思いやりの心で接し、互いの良さを認め合っている。 | 100.0% | 96.6% | 81.0% | 19.0% | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 集計 | | | | | | | | |
| | 目標 | 項目 | 目標指標 | 評価達成度アンケート内容・調査項目 | | | | | 達成状況の分析 | 改善策 | | |
| 重点項目 石川県共通 | 業務の改善 働き方や | | 各項目90％以上の達成率にする。 | ① | 時間外勤務の削減に取り組み、80時間越えゼロとなっている。 | 81.8% | | | | ①②とも8割以上の結果となり、昨年度末の結果よりも良い結果となった。しかし、①については目標指標の90％には達していない。 | 時間外勤務の数字的な結果は80％を超えている職員は0である。また、平均時間も40時間前後である。個人的に超過勤務時間を削減する工夫や能率化を組織として共有したりするなどに取り組む。 | |
| | | | | ② | 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。 | 100.0% | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

| | 目標 | 項目 | 目標指標 | 評価達成度アンケート内容・調査項目 | 数値・アンケート結果（％） | | | ※差 | 達成状況の分析 | 改善策 |
|-----------|--------|--------------------------|---|---|---------------|-------|-----|-------|--|--|
| | | | | | 教員 | 児童生徒 | 保護者 | | | |
| 小松市共通重点項目 | 指導力の向上 | 学校研究 | ①の達成率を中間95%以上、年度末100%にする。 | ① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。 | 100.0% | | | | ①②とも100%となり、教職員が共通実践を通して授業改善等に取り組んできたことが分かった。研究授業の整理会でも積極的に授業中の児童の姿や今後の授業改善に向けて話し合う姿が見られた。 | 今の取組を継続するとともに、授業改善に向けてより重点を絞って取り組むことで学校としての方向性を固めていく。そのために、今後の授業改善に向けて研究授業を通して見えた成果や課題について共通理解を進め、取り組んでいく。 |
| | | | | ② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。 | 100.0% | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | 集計 | | | | | | |
| | | 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 | ①②④の項目での肯定的な回答が、中間85%以上、年度末90%以上にする。 | ① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 | 90.9% | 94.8% | | 3.9% | ①②③④⑥の項目で教員・児童ともに90%以上となった。一方で、⑤については児童87.9%となった。中間としては目標を超えているものの、児童がより自分の学びの変容を実感したり、達成感を得られたりするよう取り組んでいきたい。 | ⑤の目標達成に向けて、研究推進委員会で1学期の取組を振り返りながら、2学期からは研究の柱の一つである「見取りと適切な指導・支援」の充実を目指す。 |
| | | | | ② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。 | 100.0% | 94.8% | | 5.2% | | |
| | | | | ③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。 | 100.0% | 91.4% | | -8.6% | | |
| | | | | ④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達のかえ（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。 | 100.0% | 93.1% | | -6.9% | | |
| | | | | ⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。 | 90.9% | 87.9% | | -3.0% | | |
| | | | | ⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。 | 100.0% | 96.6% | | -3.4% | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | 集計 | | | | | | |
| | 学力の向上 | カリキュラム・マネジメント | ①②③の項目で 中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上 | ① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。 | 100.0% | | | | ①②③の項目ですべて100%となり目標指数を達成している。 | ①②について、カリキュラムマップの見直しを行い、教科間のつながりを意識した教育実践を推進していく。 ③について、1学期に重点目標に挙げた国語・算数の単元の検証を行い、3学期へとつなげていく。 ④について、小中連携協議会で話し合った南部校区の課題を共有し、共通実践を行っていく。 |
| | | | | ② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。 | 100.0% | | | | | |
| | | | | ③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。 | 100.0% | | | | | |
| | | | | ④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携） | 100.0% | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | 学習方法 | ①児童の「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。」を90%以上にする | ① 児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている。 | 90.9% | 89.7% | | 1.3% | ①については、教員90.9%、児童89.7%と目標値に近い値となった。 | 個別最適な学びでの学び方について、ICT活用の研修を行ったり、研究での取組を関連させたりし、取組を続けていく。家庭学習においても、自分で計画を立て学習内容を決めたり、各学年の目標時間に達するために何を学ぶのか考えさせたりすることで児童が工夫して学んでいるという意識を高めた。 |
| | | | | ② 児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用している。 | 90.9% | 97.9% | | 7.0% | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | 集計 | | | | | | |

令和7年度小松市立木場小学校 学校評価2

| | 目標・具体的取り組み | 取組の状況（中間・8月提出） | 取組の成果と課題（年度末・3月提出） |
|-------------|---|---|--------------------|
| 生徒指導 | 児童の主体性を育むための積極的な生徒指導 | ・普段の職員室での児童の情報共有だけでなく、定期的な児童理解の会を実施でき、問題行動等の早期発見・未然防止を図ることができている。また、1回目の木場っ子アンケートをもとに、担任が自分のクラスの児童と面談を行った。児童のアンケート結果だけでなく、児童への事後指導や保護者への対応等を含め、全教職員と情報を共有できた。 ・「木場っ子みんなで安心・安全で楽しい学校にしよう。」の児童会目標のもと、各委員会や代表委員会を中心に様々な取組を行っている。運営委員会では、楽しい学校にするにはどうしたらよいか考え、「みんなに遊ばう運動」を題し、全校児童でおいごっこやドッジボールを計画・実施した。この取組で運動に親しみながら異学年で交流を図ることができた。遊ぶ時間や対戦するチーム編成で反省点が出たが、この振り返りを大切にして今後さらに良い取組ができるようにしていく。また、小中学生サミットの取組も児童の主体性を意識したものにしていける。 | |
| | | | |
| 安全指導 | 命を守る取組を推進し、児童の安全への意識を高める | ・避難訓練や集団登下校訓練、交通安全教室を計画的に実施し、児童と職員で命を守るために必要な避難の仕方を共有することができた。火災の避難訓練では、避難時の状況を具体的に想定し、非常口を使った避難を行った。また、警察や消防、交通推進隊など、外部人材と協力して行うことで、より実践的な訓練ができた。 ・2学期にも、避難訓練を行う予定である。今後は、教職員および児童が、あらゆる場面で臨機応変に対応できるような実践的な訓練を計画し、実施していく。 ・交通指導については、集団登下校訓練や交通安全教室に限らず日常的な指導を行うことで、ルールを守ろうとする意識の継続と向上を図る。 ・定期的に職員が校舎の安全点検を行い、事故の未然防止に努めている。災害等の際にも各点検場所の確認を行うようにしている。 | |
| | | | |
| 特別支援教育・教育相談 | 児童一人ひとりの発達課題に応じた教育支援体制の充実 | ・発達に課題を抱える児童について個別の支援シートを作成し、校内委員会を開いて情報共有したうえで支援方法について協議することができた。 ・外部機関と連携し、専門相談員を招聘して気になる児童の見取りを行い、児童の特性を把握するとともに有効な支援方法について共通理解することができた。 ・学校から外部機関に要請する以外に、保護者から市の教育センターに相談した内容についても児童理解の会で共有することができた。教職員の一致した支援につなげていきたい。 | |
| | | | |
| 道徳教育 | 道徳教育を中心とした教育活動全般の充実を図る | ・1学期中に3回、道徳通信を教職員向けに発行した。通信を通して、授業づくりのポイントや評価の仕方を共有することができた。また、「未来へつむぐ家族の手紙」と関連させた授業の展開を紹介することで外部の取組を生かした道徳の授業づくりについても伝えることができた。 ・カリキュラムマップを活用することで、重点項目について他教科と関連付け、教科横断的な道徳教育を行うことができた。 ・4月の授業参観で道徳の授業を行い、学校で行われている道徳教育を家庭や地域に公開することができている。まだ全学年ではないので、まだの学年には声かけをしていく。 | |
| | | | |
| 情報教育 | ICT端末の効果的な活用を図る | ・今年度よりGIGA研修の時間を職員会議後に設定し、職員のスキルアップに取り組んでいる。また、今年度は情報担当からの情報発信だけでなく、職員間で活用方法の情報共有も行うしていく。 ・昨年度整備したクラスサイトの更新を随時行い、職員、児童共に使いやすい環境整備に取り組んでいく。 ・デジタルコンテンツにあたるGIGAワークブックいしかわもクラスサイトから簡単にアクセスできるようにし、児童の実態に応じて情報モラル習得できる環境を整備し、定期的に指導にあたっていく。 ・職員のICT活用に関する相談等を受け付ける窓口をネットワーク上に設け、タイムリーに対応できるようにし、校内DXを推進する。 | |
| | | | |
| 読書教育 | 図書の充実を図り、児童の読書意欲を高める | ・4月の図書オリエンテーションをはじめとし、年間計画を基に図書館の利用を推進してきた。また、主に国語科を中心に並行読書や参考資料として図書館の利用を行うことができた。より「本のとびら」の質し出しが活発になるよう、担任に呼び掛けていく。 ・図書委員会のイベント「図書すごろく」について、委員会の児童らが主体的に企画・運営することができた。しかし、ルールが分かりにくく、取組は学年で差が出てしまった。後期は分かりやすく、子どもも留意しイベントを企画・運営していく。 ・図書ボランティアと連携し、読み聞かせを計画的に行うことができた。読み聞かせを通じて図書の幅を広げたり、行事や季節に合わせた本で季節を感じることができた。 | |
| | | | |
| 保健健康教育 | 自己の健康と安全（命）を管理する能力の育成 | ・1、3年で食育授業を行うことができた。2学期以降も各学年、計画的に睡眠学習と食育を進める。 ・「生命（いのち）の安全教育」を各学年で行うことができたので、今後は性に関する指導を学習計画に沿って実施できるようにする。 ・また、学校保健委員会に向けて「電子機器と脳との関係」に関する保護者アンケートを実施した。今後、集計分析を行い学校公開日に発表することで、様々なメディアとの付き合い方について保護者が関心を持ち、メディアに触れる時間や内容について話し合う機会を作り、適正な使用が広がることにつなげたい。 | |
| | | | |
| 体力向上 | 年間を通した体力向上の取組の推進 | ・健康委員会による木場っ子トレーニングのお手本動画を見ながら、全校で木場っ子トレーニングを継続的に行った。また、児童アンケートで体幹力向上に目的を持って取り組んだと回答した児童の割合は94.9%であった。児童個々人がそれぞれ目的をもって取り組んだことがわかる。5月に行った体幹力チェックでは達成率が79%であった。前年度の5月（56%）に比べて高まっているので、取組を継続し体幹力の向上を図る。 ・1学期では、6月にスポチャレいしかわのシャトルボールの強化週間を設け、取組の推進を行った。取組結果の記録の提示を行い、記録の更新や取組回数が分かるようにすることで、児童の意欲の向上を図った。学年によって取り組みが分かれたので、種目を変える2学期には強化週間の前に健康委員会から呼びかけを行い、取組みの偏りをなくすようにしたい。 ・体力テストに向けて、前年度の個々の記録や、県の平均などを記載した学習カードを用意した。前年度の自分の記録や県の同学年の平均記録と比較ができるので、児童が今年の目標を設定しやすく取組意欲の向上につながった。2学期に行う持久走大会でも、同様の学習カードを活用して児童の記録向上への意欲付けを行い、持久力の伸長につなげたい。 | |
| | | | |
| 地域・家庭連携 | 地域・家庭に開かれた学校づくり | 今年度より学校園において「県の農業農村体験事業」の助成金を得て、地域の農家さんの協力のもと野菜等の収穫体験を進めている。また、昨年度の引き継ぎ星の城プロジェクトや地域の稲作農家などのゲストティーチャーの協力も得ながら内容や時間などの精選を行い進めることができた。保護者アンケートでも「学校は、家庭や地域と連携しながら教育活動を行っている。」98.3%「学校は、お便り・メール・ホームページ等で情報提供に努めている。」96.5%と、地域家庭連携という点では、肯定的に受け止められている。さらに、児童の実体験による価値のある活動を推進していく。 | |
| | | | |
| 学校関係者評価 | (中間評価に対して 前期学校関係者評価委員会より) ・低学年集会など、段階を見てリーダー意識が持てる取り組みがあり、高学年での気構えができ、今の姿が見られている。 ・集会での感想を言わせる取り組みや授業の中での自分の考えを表現する学習はコミュニケーション能力をつける良い取り組み。生きる力なので、自分のことをしっかりと伝えられるたくましい子を育ててほしい。 ・木場小の児童数の減少が中学校へ行つてのギャップを感じる要因として心配である。競争力も大切なので、前述のコミュニケーション能力を大切にしてほしい。 ・ICT機器は便利だが、字を書けなくなってしまうのは心配である。字をしっかりと丁寧に書く指導も大切にしてほしい。 | | |